

## WHO の健康定義制定過程と健康概念の変遷について

ウスタ 白田 かん 寛\* タマシロ 玉城 ヒデヒコ 英彦<sup>2\*</sup> コウノ 河野 コウイチ 公一\*

**目的** 世界保健機関（WHO）憲章の第1原理である健康定義について①その制定経緯，②戦後の物質文明に対する反動から生じた健康定義改正論の経緯，③近年，特にWHOが健康に影響を与えると指摘している要素を検証し，今後の健康定義の位置付けを考察する。

**方法** 主にWHOの公式文書より関係資料を引用し検証と考察を行った。

**結果** 終戦直後，WHOは健康への関心を一般普及させるために健康定義を制定した。そのため健康定義はphysical, mental, socialの3要素を核とした平易で親しみやすい口語調の文章で作成された。しかし，戦後の経済復興による物質文明の追求過程においてspiritual dimensionの欠落が指摘された。WHO創立50周年を記念して行われたWHO憲章見直しではイスラム圏担当のWHO東地中海地方事務局がspiritualとdynamicを健康定義へ追加する提案を行った。しかしこの提案は1999年の第52回世界保健総会（WHA52: 52th World Health Assembly）で否決された。

近年，健康は持続可能な開発の中心概念に採用されている。また，たばこ規制枠組み条約（FCTC）のような健康問題に関わる各論分野の画期的国際合意がなされ，健康に対する関心は向上を続けている。WHOの指摘する健康危険因子は途上国の貧困問題など多くあり，今後これらが健康定義の解釈に影響を与えることも予想される。

**結論** 健康定義改正案が否決されて以来，現在まで5年あまりの期間が経過している。このことは健康定義が従来の意味しか持たないという消極的あるいは保守的見解を示しているのではない。むしろspiritual, dynamicを健康定義に追加しようという議論に一定の決着をつけたことは，加盟国間で健康の解釈に思想や宗教，民族性による差が生じた場合や，時代変遷によって健康の解釈に差が生じた場合に，解釈の方向性を現行のWHO健康定義へ集約させる原動力として効果的に働いたと解釈されるべきであろう。よって今後，WHO健康定義の軸であるphysical, mental, socialの3要素はますますその重みと解釈の幅を持って弾力的に普及拡大していくものと予想される。

**Key words** : 健康開発，健康定義，WHO憲章

### 1 はじめに

WHO健康定義は、「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity（昭和26年官報掲載の訳；完全な肉体的，精神的及び社会的福祉の状態であり，単に疾病又は病弱の存在しないことではない。）」としてよく知られている。この文

言はWHO憲章前文9原理の筆頭原理に相当する。第2原理以下には健康が人間の基本的権利であることなどが述べられており健康定義と表裏一体をなしている。

WHO健康定義を含むWHO憲章は第二次世界大戦直後にAndrija Stampar氏（ザグレブ大学学長）が作成した草案から制定（1948年）されて以来，今日まで56年間改正されていない。

本稿では①終戦直後におけるWHO健康定義の制定過程，②健康定義の解釈に影響を与えるspiritualという概念が時代変遷要因として発生し加盟国の宗教特性による解釈の影響を受けWHA52で健康定義改正議論に至った経過，③健

\* 大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室

<sup>2\*</sup> 北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻予防医学講座老年保健医学分野  
連絡先：569-8686 大阪府高槻市大学町2-7  
大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室  
白田 寛

康を中心に据える持続可能な開発の概念が確立して以降に登場してきた健康定義に影響を与えると予想される要素について、それぞれWHOの公式資料を参考にして検証と考察を行い、今後の健康定義の位置付けを考察する。

## II 第二次世界大戦直後におけるWHO健康定義の制定過程

WHOを国連機関として創設することはサンフランシスコ会議（1945年）での国連憲章採択で決定した。しかし、この会議に先立つ米英2国間協議では戦後世界の再構築に関する議題を優先させるため保健分野の議案見送りを決定しておりWHO設置は想定されていなかった<sup>1)</sup>。

第2次世界大戦以前、国際保健行政の柱は現在のWHO地域事務局に相当する複数の国際機関が独立して行う地域密着型の疾病・衛生対策であった。そのため現在のWHOに相当する国際連盟のThe Health Organization of the League of Nationsは全世界レベルの保健行政を掌握するには至っていなかった。この現状に改革の必要性を感じていた施思明氏（Szeming Sze, 中国保健省上席研究員、在ワシントン中国大使）は乱立していた国際保健機関の統合構想を提案し、サンフランシスコ会議で「WHO設置のための専門準備委員

会緊急招集案」を中国・ブラジル共同宣言として表明し採択された<sup>2)</sup>。これによって第1回国際連合経済社会理事会（1946年）でWHO設置が正式決定され、専門準備委員会において健康定義を含むWHO憲章の起草作業が始まった<sup>3)</sup>。

現在のWHO健康定義はStampar氏が作成したWHO憲章草案の前文<sup>4)</sup>にある13原理のうち第2原理（資料1）に由来している。Stampar氏はこの原理をHenry Sigerist氏（ジョンズホプキンス大学医学史研究所所長）が1941年に発表<sup>5)</sup>した文章（資料2）を参考にして作成したとされる<sup>6)</sup>。

資料1および2を現行のWHO健康定義と対比させると健康の3要素とされているphysicalはsomething positive, mentalはa joyful attitude towards life, socialはfitness resulting from positive factors, such as adequate feeding, housing and training;（資料1）またはa cheerful acceptance of the responsibilities that life puts upon individuals（資料2）から由来している。

Stampar氏の草案は専門準備委員会（1946年）の憲章前文検討委員会による審議で他の3草案（英、仏、米）より完成度が高いと評価されて採用された<sup>7)</sup>。しかしWhereasを多用した古典的文体（資料2）であったため、議長の施思明氏から一般普及に不適であると指摘され口語調に変換さ

### 資料1 現在のWHO健康定義の由来となったWHO憲章前文草案（Andrija Stampar氏作成，1946年）

Whereas health is not only the absence of infirmity and disease, but also state of physical and mental well-being and fitness resulting from positive factors, such as adequate feeding, housing and training;

### 資料2 Andrija Stampar氏が参考としたHenry Sigerist氏の文章（斜体太字部分，1941年）

A healthy individual is a man who is well balanced bodily and mentally, and well adjusted to his physical and social environment. He is full control of his physical and mental faculties, can adapt to environmental changes, so long as they do not exceed normal limits, and contributes to the welfare of society according to his ability. *Health therefore is not simply the absence of disease; it is something positive, a joyful attitude towards life, and a cheerful acceptance of the responsibilities that life puts upon the individuals.*

### 資料3 憲章前文検討委員会が作成したWHO健康定義に相当する原理（1946年）

Health is not only the absence of infirmity or disease but also a state of physical fitness and mental and social well-being.

### 資料4 専門準備委員会が決議したWHO健康定義に相当する原理（1946年）

Health is a state of physical fitness and of mental and social well-being, not only the absence of infirmity and disease.

れた。この段階で social という用語が登場している（資料3）。Stampar氏はWHO憲章に健康定義の明記を求めた<sup>8)</sup>ためそれまで第2原理だった健康定義は筆頭原理となり最終草案（資料4）として決議された。

この草案は次に国際保健会議第一分科会で、9つの前文原理に集約され、WHO健康定義に相当する部分も現行の形に修正された。WHO憲章前文が決議された国際保健会議第8回会合（1946年<sup>9)</sup>では第6原理の後半部分；the ability to live harmoniously in a changing total environment is essential to such developmentの補足が承認された以外に大きな修正はなかった<sup>10)</sup>。

WHO憲章が制定され、WHOが発足した終戦直後はサンフランシスコ会議で保健問題が先送りされたことからわかるように、インフラ復興が先決問題で、健康への国際的関心は低い時期だった。それゆえ、健康への関心を一般に普及させることを目的として、WHO健康定義は平易な口語調の文章で作成され、その過程で physical, mental, social が健康の3要素として明文化された。しかし、憲章前文検討委員会でも国際保健会議でも内容についての討論はほとんど行われていない。制定以降も36年後のWHA37で spiritual dimension が提唱されるまで健康定義の内容がWHOで議論されることはなかった。

### III 戦後の物質文明に対する反動から生じた健康定義改正議論

WHOはHealth for All by the Year 2000を展開中の1977年にWHA30.43 Technical cooperationと1978年のアルマアタ宣言5章で「次の10年の社会目標は全国民の健康水準を引き上げ2000年までに社会的にも経済的にも生産性ある生活を可能にすること」とし、健康を経済開発に結びつける提案を行った。しかし経済開発による物質文明追求は結果として spiritual dimension の欠落を生じる。そしてWHA37.13では“The spiritual dimension in the Global Strategy for Health for All by the Year 2000”が決議され Halfdan T. Mahler氏（当時WHO事務局長）が、「物質文明を通じてでなく、人間の精神や良心の根源となる信仰、理想、倫理などの高尚思考を通じて健康への取り組みを世界的に活性化する spiritual dimension とい

う要素をWHO健康定義に追加するべきである。」と述べ、spiritualがWHO健康定義の第4要素として注目され始めた<sup>11)</sup>。

Spiritualは健康定義の要素と考えられる以前にはイギリスの社会学者Arnold Toynbeeが著書に用いて普及した用語でもある。WHO健康定義に spiritual を追加する動きが生じた当時は消費拡大による生活向上によって健康を追求する物質文明が限界に近づいているという危機感があった<sup>12)</sup>。

1990年代に入ると、WHOではソビエト崩壊や東西ドイツの統合などの世界情勢変化に対応した組織改革を行うことが決議され、WHO創立半世紀となる1998年を節目にWHO憲章の見直しを行うことが決まった<sup>13)</sup>。この当時にアンマン宣言（1989年）を表明してイスラム健康観の世界普及を目指していたWHO東地中海地方事務局は、WHO憲章改正を好機と捉え、1998年にWHOの現行の健康定義に dynamic と spiritual を加えた、“Health is a *dynamic* state of complete physical, mental, *spiritual* and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity”に改定する提案を行った。

WHA37.13決議以降、WHO南東アジア事務局のD. B. Bisht氏らによってWHO健康定義に spiritual を単独で追加してWHO憲章を改正しようとする意見はあったが、WHO東地中海地方事務局が提示したWHO健康定義修正案は spiritual に加えて dynamic の2要素を加えようとするものであった。しかし dynamic についてWHOで具体的な議論が行われたことはなかった。

このWHO健康定義修正案はWHA52で審議がほとんどないまま見送られたが<sup>14)</sup>、その理由を執行理事会段階と総会の議事録から分析すると dynamic が身体の動的平衡状態 state of dynamic（資料5）というアンマン宣言第3項にあるコーラン教義に基づくイスラム圏の spiritual dimension 独特の健康観であるため、改正によって宗教を超越すべき健康定義が特定宗教へ偏重したり、宗教との混同（宗教による健康支配）が生じることを危惧する発言（スリランカ、ホンジュラス代表）がみられ、これが否決につながった一因とも考えられる。なお、執行理事会と総会における議論経過は前回の資料<sup>15)</sup>で詳しく報告している。

## 資料5 アンマン宣言第3項にあるイスラム経典コーランに基づく健康観（1989年）

People can preserve their health, as enjoined in the Quran, by maintaining a moderate health balance in a state of dynamic equilibrium, neither exceeding the bounds, nor falling short in that balance.

## IV 持続可能な開発の概念が普及して以降

Spiritual dimension の概念が生じたのとはほぼ同時期から経済開発による環境破壊にも焦点が当てられている。ブルントラントレポート（1986年）<sup>17)</sup>以降は持続可能な開発（将来の世代の欲求を損なうことなく、現代の世代の欲求も満足させるような開発）という概念が生まれ<sup>18)</sup>、経済開発と環境保全の両立が重要視されるようになった。さらにリオ宣言（1992年）の第1原理<sup>19)</sup>では、「人類は、持続可能な開発の中心にある。人類は、自然と調和しつつ健康で生産的な生活を送る資格を有する。」という国際合意に達し、健康を中心に据えて経済開発と環境保全に取り組む方針が確認された。ヨハネスブルグサミット（2002年）では持続可能な開発の実践を行う場合の問題点として経済成長の公平性（経済格差是正、貧困削減）、天然資源と環境保全、社会開発（文化的・社会的多様性の尊重）などが指摘されている<sup>20)</sup>。

持続可能な開発以降はたばこ規制枠組み条約（FCTC）が批准されるなど<sup>21)</sup>、各論的な健康問題へ踏み込んだ画期的な国際合意が生まれている。今後、国際的な健康開発（プライマリーヘルスケアの実施および充実、すなわち健康教育、栄養摂取の促進、飲料水の確保、衛生状態の改善、家族計画、予防接種、風土病対策、簡単な病気および創傷の治療、常備薬の供給）を推進する過程で最も障害になると予想されているのは途上国の貧困問題である。

世界銀行は1990年代に入ってからWHOを含めたWTO（世界貿易機関）、IMF（国際通貨基金）、UNDP（国連開発計画）、UNCTAD（国連貿易開発会議）などの国連機関による貧困対策で主導的役割を果たしている。

WHOはWHA54で、「貧困や教育欠如は主要な健康危険因子であり低開発危険因子でもある。健康は開発の必要条件でもあり結果でもある」<sup>22)</sup>、WHA55では「貧困削減は健康につながり、健康は持続的貧困解消につながる。」などと決議し貧

困対策の重要性を強調している<sup>23)</sup>。

Brundtland氏（前WHO事務局長）はWHA55の演説<sup>24)</sup>で、今後課題となることが予想される主要健康危険因子として、開発途上国での貧困以外にも低栄養、危険な性行為、飲料水汚染、劣悪な衛生環境、鉄分不足、石炭燃料による室内空気汚染、先進国での高カロリー食による高血圧、高脂血症、心疾患、脳血管障害、その増幅因子としてたばこや飲酒、不適切な食習慣による肥満を指摘している。今後、これらの因子は我われの報告してきた持続可能な開発の概念<sup>18)</sup>、各論的健康問題に関する国際合意の形成<sup>21)</sup>や健康定義の解釈に影響を与えると考えられる。

## V おわりに

WHO健康定義が第二次世界大戦直後に制定されて以来、時代変遷の影響や加盟国の宗教特性による解釈の差によって、健康概念がどう変動してきたかを検討した。資料6に示すように終戦直後のWHO憲章制定時は、健康定義の存在そのものを国際社会に普及させるために、内容よりも文章の平易さに重点を置いた経緯があった。その後、戦後の経済成長期には物質文明を優先した反動としてspiritualが健康の第4要素として注目を集めるようになり、WHO総会レベルにおける健康定義の改正議論まで進んだ。しかしWHA52ではWHO憲章全般が過去半世紀の間、国際保健政策の運用に柔軟性を発揮した実績と前文原理の不変性が重視され、世界の激変期にこそ認知されたWHO憲章が組織骨格として必要であるため、健康定義改正は必要ないとする意見が大半を占め、改正には至らなかった<sup>14)</sup>。

WHOではspiritual, dynamicの健康定義への追加が否決されたWHA52からすでに5年以上経過したにもかかわらず、健康定義に関する議論は行われていない。今後もWHA52の決定が重視されるならば健康定義の改正や新しい文言の追加はしばらく行われぬ可能性が高い。しかしWHA52での健康定義改正案否決やその後の議論

## 資料6 時代変遷に伴う WHO での健康の取り扱いあるいは健康定義の解釈変動

西暦・時代背景	WHO の対応
1946年・戦後復興初期	WHO 憲章および WHO 健康定義の制定では普及と親しみやすさを優先
1977年・物質文明の隆盛	健康水準向上を経済開発に結びつける提案
1984年・物質文明の反動	健康定義へ spiritual dimension 追加を提案
1986年・環境破壊の反省	持続可能な開発の概念が登場
1992年・リオ宣言	社会, 経済, 環境の中心に健康を据える持続可能な開発の概念が完成
1998年・WHO 50周年	総会で健康定義に dynamic と spiritual を追加する審議があったが見送り
2002年・経済格差の拡大	貧困削減は健康につながり, 健康は持続的貧困解消につながると決議
2003年・たばこ対策	各論的な健康対策, たばこ規制枠組み条約 (FCTC) の成立

の空白期間は, 健康定義が終戦直後に制定された  
 当時の従来的意味しか持たないという消極的  
 あるいは保守的見解を必ずしも意味するものでは  
 ない。むしろ WHA52 で spiritual, dynamic の追  
 加を議論したことは加盟国間の思想や宗教, 民族  
 性によって健康定義の解釈に差が生じる場合や時  
 代変遷に伴って登場する新要素が健康定義の解釈  
 に影響を与える場合にそれらを現行の WHO 健  
 康定義へ集約させて解釈するよう促すのに効果的  
 に働いたと思われる。よって今後, physical,  
 mental, social の3つを軸とする WHO 健康定義  
 はますますその重みと解釈の幅を持って弾力的に  
 普及拡大していくものと予想される。

(受付 2003. 5.15)  
 (採用 2004. 6.25)

## 文 献

- Forum Interview with Szeming Sze. WHO: from small beginnings. World Health Forum 1988; 9: 29-34.
- UNWHO Interim Commission. E/H/PC/W/16. 5 April 1946 Annex 1. San Francisco Resolution and Summary of the Events Leading up to the Meeting of the Technical Preparatory Committee. Official Records of WHO No. 1. Minutes of the Technical Preparatory Committee for the International Health Conference Held in Paris from 18 March to 5 April. 1946; 54-61.
- Resolution of the Economic and Social Council of UN of 15 February 1946 E/9. Rev. 1 25 February 1946.
- UNWHO Interim Commission. E/H/PC/10. 20 March 1946 Annex 9. Suggestions Relating to The Constitution of An International Health Organization (Submitted by Dr. A. Stampar, Yugoslavia). Official Records of the World Health Organization No. 1. Minutes of the Technical Preparatory Committee for the International Health Conference Held in Paris from 18 March to 5 April. 1946; 54-61.
- Sigerist HE. Medicine and Human Welfare. New Haven: Yale University Press, 1941.
- PAHO Pan American Sanitary Bureau Regional Office of WHO. Official Document No. 302 Annual Report of the Director-2001. Promoting Health in the Americas Washington, D. C. PAHO. 2001; 9-19.
- UNWHO Interim Commission. Sixth meeting Held on Thursday, 21 March 1946, Palais d'Orsay, Paris Chairman: Dr. Rene Sand (Belgium). Official Records of WHO No. 1. Minutes of the Technical Preparatory Committee for the International Health Conference Held in Paris from 18 March to 5 April. 1946; 16-18.
- UNWHO Interim Commission. Eight meeting Held on Friday, 22 March 1946, Palais d'Orsay, Paris Chairman: Dr. Rene Sand (Belgium). Official Records of WHO No. 1. Minutes of the Technical Preparatory Committee for the International Health Conference Held in Paris from 18 March to 5 April. 1946; 19-21.
- UNWHO Interim Commission. B. Text of the Constitution of the World Health Organization. Official Records of WHO No. 2. Summary Report on Proceedings Minutes and Final Acts of The International Health Conference Held in New York From 19 June to 22 July. 1946; 100-109.
- UNWHO Interim Commission. Eight meeting Held on Friday, 22 March 1946, Palais d'Orsay, Paris Chairman: Dr. Rene Sand (Belgium). Official Records of the World Health Organization No. 1. Minutes of the Technical Preparatory Committee for the International Health Conference Held in Paris from 18 March to 5 April. 1946; 19-21.
- WHO. The spiritual dimension in the Global Strategy for Health for All by the Year 2000. 37<sup>th</sup> WHA. WHA37.13. 1984.
- WHO. WHO chronicle, 37: 1983. 131.

- 13) WHO. WHO response to global change: review of the constitution of WHO. 46<sup>th</sup> WHA. WHA46.16. 1995.
  - 14) WHO. Amendments to the Constitution: Item 16 of the Agenda (Documents A52/24) 52<sup>nd</sup> WHA. A52/B/SR/3 1999; 8-10.
  - 15) 臼田 寛, 玉城英彦, 河野公一. WHO 憲章の健康定義が改正に至らなかった経緯. 日本公衆衛生雑誌 2000; 47: 1013-1017.
  - 16) The Amman Declaration on Health Promotion. The Consultation on Islamic Lifestyles and their Impact on Health Development and Human Development in General, held in Amman, Jordan, on 19 to 22 Thul-Qa'da, 1409 AH (corresponding to 23-26 June 1989) with a view to achieving Health for All by the Year 2000. 1989.
  - 17) World Commission on Environment and development (WCED). Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development. Oxford: Oxford University Press, 1987.
  - 18) 臼田 寛, 藤原美沙, 陶山昭彦, 玉城英彦. 持続可能な開発と健康—WHO を中心とした最近の国際保健動向—. 日本公衆衛生雑誌 2000; 47: 101-105.
  - 19) Rio Declaration on Environment and Development. The United Nations Conference on Environment and Development, Having met at Rio de Janeiro from 3 to 14 June 1992.
  - 20) The Johannesburg Declaration on Sustainable Development World Summit on Sustainable Development Johannesburg, South Africa 26 August-4 September 2002.
  - 21) 臼田 寛, 紺野圭太, 河野公一, 玉城英彦. 「たばこ規制枠組み条約」を中心とした WHO のたばこ政策—わが国のたばこ政策への影響—. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49: 236-245.
  - 22) WHO. Strengthening health systems in developing countries. 54<sup>th</sup> WHA. WHA54.13. 2001.
  - 23) WHO. Health and sustainable development. W55<sup>th</sup> WHA. WHA55.11. 2002.
  - 24) WHO. Address by Dr Gro Harlem Brundtland Director-General to the Fifty-fifth World Health Assembly. 54<sup>th</sup> WHA. World Health Assembly Document Geneva, 2002.
-